

真空管アンプが少しあわかつたつもりになる

雑学

奥が深い真空管の世界

これだけは頭に入れておくとよい 捨辺 始終

■今後の真空管の供給

真空管を生産している国は現在、中国、ロシア、台湾、チェコスロバキヤなどがあり、オリ

ジナル、またはOEMブランド名で販売されています。とくに、中国製は輸入業者によっていろいろなブランド名で多数販売されています。

かつて真空管が全盛の時代（1970年頃）は米国をはじめ、英国や西ドイツ、オランダなどでたくさんのメーカが真空管を製造していました。現在でも当時作られた米国、英国や西ドイツ製のものは、オリジナルのブランド名で貴重品として扱われています。

日本でも全盛期には、大手家電メーカや中小企業がラジオやテレビ用の真空管を製造していました。当時、秋葉原の真空管販売店では、真空管がメーカー別に並べられて売っていました。大手の球と中小の球が自然に区別されて、値段も製造メーカーによって異なっていました。

各社はオーディオ用の真空管にも力を入れていました。それがHi-Fi（ハイファイ：高忠実度）用で、ペア・チューブと表示され、2本同じ特性のものをセットにして売っていました。

昨今は、真空管を売っている店はとても数少なくなりましたが、愛好家やブームに支えられて、真空管を含めてそのパーツ類も今なお健在です。真空管の今後の供給についても、ビンテージのアメリカ製やオランダ製、ある



写真1 真空管の有名製造メーカRCAの前進「カニングハム」が何十年もの昔に大出力用として世に送り出した直熱三極管CX-350

シングルで出力4W級であるが当時としては大出力。このようなビンテージの真空管は今なお健在で流通している球も少なくない